

國學院大學學術情報リポジトリ

初宮参りの現状に関する研究

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-22 キーワード (Ja): 初宮参り, 家族のイベント, 儀礼の伝達, 高度情報化, 写真 キーワード (En): 作成者: 中島, 裕 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001650

論 文 要 旨

学籍番号	233108	氏 名	中島 裕
論文題目： 初宮参りの現状に関する研究			
(内容の要旨) 日本社会の近代化により、伝統的に行われていた人生儀礼が失われるか、あるいは行われていてもその意味が変容しているとされる。先行研究によれば、初宮参りの伝統的な意味は、氏神様への報告・承認、氏子入り、忌明け、赤ちゃんの魂の鎮め、ハレの日などであり、共同体主体の儀礼で社会的承認を伴うとされてきた。現代の初宮参りではそれらの伝統的な意味は希薄化し、個々の家族主体の行事で、子どもの健康や成長を願う、思い出や記念づくりの場となっているという。しかし先行研究は現在から15年以上前の調査によるものであり、その後の社会環境の変化などによりどうなったのかについて明らかになっていない。そこであらためて調査し、初宮参りの現状の一端を明らかにするのが本研究の主旨である。 筆者は一都三県を対象として3種の現状調査を行った。1つ目は初宮参りを行う育児中の親へのアンケートおよびインタビューであり、どのように初宮参りを行ったのかについて聞いた。2つ目は初宮参りの祭事を行う神社へのインタビューであり、現在の初宮参りが神社から見てどのように行われているのかについて聞いた。また3つ目は多くの育児中の親が情報源として参照していると考えられる、ウェブサイト上の初宮参りに関する言説を調べた。 これらの調査から、以下のとおり初宮参りの現状を確認することができた。調査からみえる一都三県における初宮参りは、生まれてきた子どもの健康や成長を願い、伝統的宗教を利用して行われる、家族（祖父母を含む）が行う特別で大事な行事・イベントであると見られる。すなわち、昨今の高度情報化の進展や新型コロナウイルス感染症禍などの大きな社会環境の変化があっても、先行研究による調査が行われた15年以上前と同様に、現在でも初宮参りが比較的行われている傾向にあることがわかった。一方で先行研究とは異なる点も見られた。それは①案外、子の祖父母世代から現役の育児世代に対して儀礼に関する伝達が行われていること、②具体的な情報源はスマートフォンにより検索されるウェブサイト上の言説であり、また一部にスマホアプリやSNSなどの使用も見られること、③写真撮影が従来に比して増加していること、④父親の参画が見られること、などである。			
キーワード (5 語)			
初宮参り 家族の行事・イベント 儀礼の伝達 高度情報化 写真			